

学生としての現状と卒業後の私

河野 陽平

日本文理大学医療専門学校 臨床検査学科 3年

4月に発生しました熊本および大分を震源とする地震により被災された皆さま、またそのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。本校所在地の大分市内はさほど大きな被害はありませんでした。ご心配頂きありがとうございました。

【はじめに】

私は、鹿児島県奄美大島出身で、現在、日本文理大学医療専門学校で臨床検査技師を目指し、勉強しています。私は、家族が医療系の仕事をしていることから、なんとなく将来は白衣を着る仕事に就きたいと考えていました。自分の将来を考える時期となり、中学での職業体験学習で「医療系」を選択し、病院での仕事を体験する機会がありました。その際に、「臨床検査技師」という職業を知り、病気の治療に重要な役割を果たすことなどを学びました。その後、たくさんの方々からのアドバイスも頂き、臨床検査技師の道へ進もうと決意し、進学しました。

【学校生活について】

入学してまず衝撃を受けた事は勉強量の多さと内容の深さでした。生体のシステムでは、とても多くの物質が存在すること、その物質が連動して動かなければ生命は維持できないことを知り、個々の物質の重要性もさることながら、相互作用の持つ力の重みを感じました。

また、本校には「学生会」という組織があり、私は1年生のころから所属しています。学生会の活動内容は、4月「新入生フレッシュマンセミナー」に同行し1泊2日新入生と過ごします。その中で、3年間の学校生活をどのように過ごせば良いかアドバイスしたり、大分県外から入学し、初めての一人暮らしの不安解消のため、自分達の経験談などを交え、話をしたりするグループミーティングを企画実行します。10月には、全在校生対象に「スポーツ大会」を企画運営します。クラスの団結や学年を超

えた助け合い、他の2学科との対抗戦では学科内での連携などが生まれます。他にも挨拶運動や今回の地震では義援金集めなど

の活動をしています。私がこの活動で学んだ事、それは「連携し助け合う力の強さ」です。

【卒業後の自分について】

私は、学習面はもちろんですが、学生会活動を通じて、人と人との連携の大切さ、有言実行の難しさ、相手の立場で物事を考えることの大切さなど沢山の事を学びました。この経験は、講義で学習した「チーム医療」に役立てることができるのではないかと考えています。臨床検査技師どうしの連携、他の医療職との連携、患者さんとの信頼関係の形成、臨床検査技師である前に「医療人」であることなど、将来どの分野で働くかは分かりませんが、私が学んだ事はどこでも役立つと考えています。今後、地元の県立大島病院で臨地実習をさせて頂きます。臨地実習において沢山の事を学びたいと思っています。

連絡先: 日本文理大学医療専門学校

臨床検査学科(担当教員・宮本)

097-524-2857

目標を持つことの重要性について

安武 諒

九州医学技術専門学校 臨床検査科 3年

私は九州医学技術専門学校に在籍しています。現在(4月末)臨地実習を経験していないため、私が臨床検査技師を目指した理由と今後の目標について述べたいと思います。

私は幼い頃病弱でした。そのため、医療従事者である親戚のお世話になることが多く、医療というものを身近に感じながら育ちました。そのような環境から自然と医療従事者として働くイメージがありました。しかし、具体的にどのような職種に就きたいのかを決めることが出来ず、学校で教わる内容が一体何に役立つのか分からない状態で何となく勉強していました。そんな高校生活を送っていた時、現在通っている専門学校の先生から臨床検査技師についての講話を聴き、それがきっかけで検査という分野に興味を持ち、臨床検査技師の道に進むことを決めました。私は臨床検査技師になりたいという目標を持ってからは高校の勉強に身が入るようになり、目標とする学校に合格するため勉強するようになりました。

そのかいあって、現在の専門学校に入学することができました。教わる内容は明らかに高校時代よりも難しかったのですが、自分が興味をもった分野を学ぶことができ、さらに国家試験合格という目標があるため、充実した毎日が送れるようになりました。現在の自分と高校時代の自分を比較してみたところ、目標を持ったことによってモチベーションが上がり、物事に対して積極的になっていることに気づき、目標を持つことがいかに重要であるか考えるようになりました。

私は学校で教わる用手法が病院では用いられていないと聞き、どのようにして検査が行われているのか気になり病院見学に行きました。そこでは機械で殆どの検査データを出していたため、非常に驚きました。機械が出す検査データが何を表しているのか理解しないといけないため、現在では臨床検査技師の技術のみならず知識も

要求されていると痛感しました。そのため、今は就職後すぐに現場で活躍できることを目標に勉強しています。卒業後どのような臨床検査技師になりたいのかという具体的なイメージはまだできませんが、信頼される検査データを提供したいと思います。学会当日は、臨地実習を通して考えた私の目指す臨床検査技師像をお話しできればと思っています。

私のこれまでの歩みと、現状描く臨床検査技師としての将来像

浦川 雅貴

熊本大学医学部保健学科 検査技術科専攻 4年

[はじめに]

私は入学後これまで、自身が臨床検査技師として社会に出るということに何の疑いももたず、それ故、臨床検査技師としての将来像について特に深く考えることもなく、3年以上もの学生生活を漫然と送って来た。そんな私にとって、今回この発表の場をいただいたことは、自身の将来と真剣に向き合う、本当に良い機会となった。従って、ここに感謝の気持ちを込めて、現状私が描く臨床検査技師としての将来像、ならびにそこに至るまでの私の取り組みや心境の変化について述べていく。

[大学入学まで]

今振り返ってみれば、大学入試の際、私が熊本大学医学部保健学科検査技術科専攻学部を志望校に定めた動機は、決して胸を張れるほどのものではなかった。身近な存在だった祖父の死をきっかけに、漠然と医療従事者としての自身の将来を思い描いてはいたものの、「何故、数ある医療職の中で臨床検査技師を選択するのか?」という問いかけに、きちんと回答できる知識も信念もなければ、医療従事者としての使命に燃えるわけでもない、いわば受験生として当時最もテクニカルにフィットした場所を志望校に選んだに過ぎない、現代によくいる高校生の一人であったように思う。

[大学入学後現在まで]

入学後も、長く臨床検査技師としての将来像を十分描き得ない自分がいた。それでも、学年が進み、講義や実習が進む中で、「機械化が進む臨床検査業界の中においても、あくまで「人」が携わらなければ成り立たない業務とは何か」という視点から至った私の最終目標は、「病理を専門とする臨床検査技師になること」となった。

[現状描く臨床検査技師としての将来像]

私自身が将来、病理学を専門とする臨床検査技師の一人に成長するためには、単に臨床検査技師としての技術的側面を充実させるだけでなく、「医療従事者とし

ての確固たる使命感」や「検査業界全体の将来を見抜く力」、そして「後進の指導にもつながる確かな医科学の知識」兼ね備えることができるようにならなければいけないと、最近特に強く感じるようになった。その目標に向かうためには、先輩方の教えのもと、自らの努力も怠らず細胞検査士資格や病理の一般検査技師取得を目指す一方で、絶えず臨床を足場に、検査室を含めた医療現場の現状・問題点を知り、患者・一般市民のニーズやその変化に敏感になること、そして社会人大学院進学も視野に入れた医科学への本格的取り組みを継続していくことが必要と考えている。患者から学び、現場・先輩たちから学び、さらには優れた病理学の研究者に師事することで、自身を成長させ、一医療従事者として社会に貢献できる人材となっていきたい。

医療に貢献できる臨床検査技師を目指して

瓜生 真記

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校

【臨床検査技師を目指したきっかけ】

私が臨床検査技師を目指すきっかけは、看護師である母より「臨床検査技師は医師の判断に大きく影響する正確な検査結果を提供するという医療の基盤となる仕事である」と勧められ、臨床検査技師という仕事に興味を持ち、やりがいを感じたからである。そのなかで最短で臨床検査技師になれる3年制の養成校の中から、全国でも数少ない医学部附属で大学病院が併設され、常に医療の最前線を感じられる環境の本校を選択した。

【学生としての現状】

本校の学生生活は、3年間で臨床検査技師になるために講義、実習、レポートの毎日で思っていた以上に繁忙であった。また2年、3年生時は研究発表会に参加する。グループで約半年かけて調査した内容を発表するが、研究発表をとおして問題点と向き合い解決していく中で研究心と共にチームワークの大切さを学んだ。現在、私は3年生で臨地実習病院に通い、教科書で学んだ測定項目がどのような形でおこなわれているのかを体感している。私は、臨地実習で臨床検査技師として働く先輩方が検査結果から瞬時に患者の病態を推察する姿に圧倒され、学校で学んだ知識がどのように患者さんに反映されるかようやく理解できた。

学校生活の中では、勉強のみでなく積極的に学校行事へ参加した。学園祭では、実行委員として医学科や看護学科の学生との関わりと学園祭の成功へ協力して仕事を行っていくことは、臨床の現場でのチーム医療に通じると感じた。

【医療への貢献】

私は、細胞検査士の先輩方とともに子宮頸がん検診受診の啓発キャンペーンに参加した。一般の人に検診の重要性を知ってもらうことでがんの早期発見ができれば医療に貢献できるのではないかと考え、臨床検査技師になっても引き続きこのような活動を行っていきたい。

また私は、1年生の時から細胞診や組織の標本を観察することが好きであり細胞検査士になりたいと思っている。細胞診でがんを早期発見できれば、患者さんに対して貢献できるのではないかと思う。

【卒業後の私】

私は、本校で培った勉強、チームワークや研究心を生かし、高度な知識や技術をもつ臨床検査技師になりたい。その後、がんの早期発見、患者さんに貢献できる細胞検査士を目指す。

連絡先: 〒830-0011

福岡県久留米市旭町 67

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校

電話: 0942-31-7592

学生氏名: 瓜生 真記

教員氏名: 安倍 秀幸

臨床検査技師新人(卒業生)への日臨技学生セッション

佐藤 元恭

日臨技九州支部 支部長

【はじめに】

一般社団法人日本衛生検査技師会(以下、日臨技)とは、全国の医療施設、検査センター、臨床検査関連企業、健診センター等で活躍している 57,000 名余りの臨床検査技師・衛生検査技師が加入している全国組織における職能団体である。

日臨技は 47 都道府県の技師会と連携して、臨床検査の学術や技術のスキルアップ、チーム医療への参画及び職域拡大等に取り組んでいる。学会では、全国学会として 7 支部の輪番制にて担当する「日本医学検査学会」、また各支部の「支部医学検査学会」が毎年開催されている。今年度においては、2016 年 8 月 31 日～9 月 4 日に日本では 28 年ぶりに「第 32 回世界医学検査学会」が神戸市にて開催され、並行して第 65 回日本医学検査学会も開催される(抄録作成:2016 年 6 月末)。

論文誌として、定期的に発行されている「医学検査」は、「J-STAGE」に登録されており学術誌として認められている。また認定技師制度として、「日臨技認定センター」が設置され、会員の技術レベル向上の目標として現在 8 つの検査領域における認定を担っている。さらに「日臨技認定機構」では、臨床検査における他団体・学会と協力して、血液、輸血及び微生物等の認定への協力を行っている。

その他として、精度管理事業、標準化事業、チーム医療推進、医療安全、国際交流及び医療人としての人材育成など、様々な事業に取り組んでおり、今後も我々の地位向上の一助となる事業推進が検討されている。

共済事業では、医療事故を補償する「臨床検査技師賠償責任保険」を導入し、全会員に加入されており、また日臨技・都道府県技師会の各種行事への参加・活動中の「傷害保険」にも対応している。会員個人で設定さ

れた様々な保険に任意に加入することもでき、それらの保険料は団体割引適用される。さらには、労務、法律及び税務関連等の無料相談窓口を設置するなど、会員の共済制度が充実されている。

【日臨技の組織・運営】

臨床検査技師・衛生検査技師の学術研鑽と発展、医療と公衆衛生の向上を図る事によって、国民の健康の保持、増進に寄与する事を目的に様々な活動に取り組んでいる。

《事業展開》

「学術部」、「渉外部」、「総務部」の 3 部門の事業を軸に事業展開している。

[学術部]

1) 医学検査学会・研修会の開催

- 日臨技医学検査学会(全国学会)を年 1 回開催
- 日臨技支部医学検査学会(7 支部:北日本、関甲信、首都圏、近畿、中四国、九州)を各支部において年 1 回開催
- 支部研修会の開催(専門分野別 9 部門)
- 都道府県技師会における各種研修会への助成制度

2) 生涯教育研修制度の運営

- 「基礎部門」:医療人としてのスキルに主眼
 - 「専門部門」:各種専門分野のスキルに主眼
- ※ 学会・研修会等における発表・参加に履修点数を付与し、履修開始年度から 5 年間で 1 サイクルとし、履修点数の合計が 200 点以上に達した場合はその年度で修了となり、次年度から次のサイクルを開始する。

3) 認定技師制度の運営

→ 各専門分野における技術・知識の習得に対する評価として、認定技師制度を運営している。

4) 出版事業

- 医学検査、会報 JAMT、JAMT マガジン
- 一般・学生向け情報誌として季刊誌「Pipette」

5) 精度管理・データ標準化事業

→ 「何時でも何処でも同じ検査結果を提供できる環境」を整える事を目標に事業展開している。

[渉外部]

1) 政策調査課(日臨技事務局内)

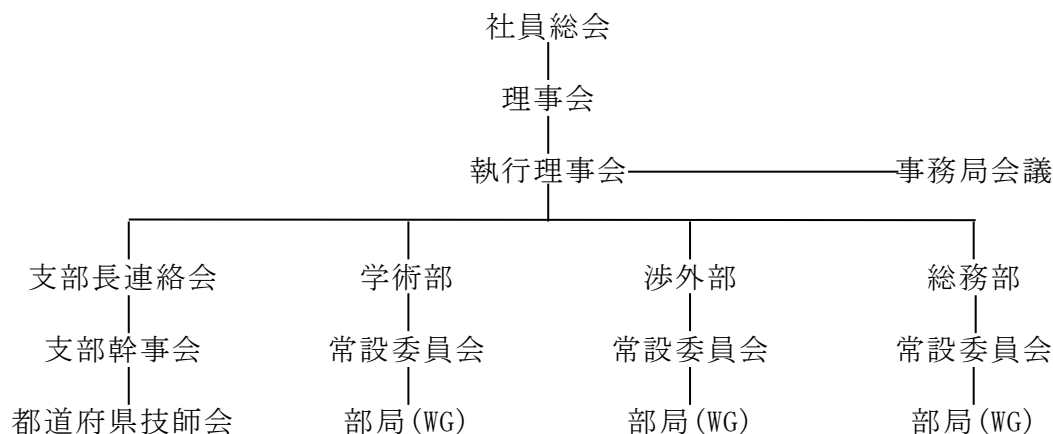
→ 医療施策に対する情報収集と実態調査によるデータ解析を実施し、医療政策 WG、診療報酬検討委員会、病棟業務検討委員会、メディカルスタッフ業務検証委員会などの活動を通して、「チーム医療推進」をキーワードに、業務拡大に向けて取り組んでいる

[総務部]

- 1) 会員管理、情報提供、新人研修会、地域ニューリーダー育成研修会、女性管理者研修会、会員意識調査など、組織強化に向けて様々な取り組みをしている。
- 2) 検査と健康展
→ 11月11日の『臨床検査の日』に合わせ、全国47都道府県技師会主催で一般市民を対象に「検査と健康展」を開催し、検査の仕組みや健康管理の重要性について啓発活動を行っている。

3) 福利厚生

業務中の賠償責任保険、会務中の傷害保険



【日臨技の組織体制】

【おわりに】

少子高齢化に伴い、2025年・2035年に向けて厚生労働省は、医療機能分化や財源確保など、持続可能な社会保障制度を確立するために、「病院完結型」の医療から地域全体で患者を支える「地域完結型」の実現に向けて、地域医療連携や地域包括ケアシステムなどの大きな展開が行われている。

臨床検査技師の根幹は検査データの精度保証であり、迅速に臨床のニーズに合ったタイミングで情報提供をしなければならない。これからは、検体採取～検査実施～検査結果の解釈・検査結果の患者への

説明、さらには医療スタッフや患者からの検査相談など、臨床検査全般に関わりと責任を持ち、医療の診断・治療や患者の健康保持へ繋がる役割を果たさなければならないと考えられる。